



Elementary School Memories part 7



小学校の思い出 7

4年生から6年生の間、アジア、インド、ネイティブ系など見た目もはっきり違うクラスメートがいました。あとは一見みな同じ“白人”ですがイギリス、ドイツ、スコットランド、アイルランドなど家族の歴史はいろいろでした。家の中では母国語という家庭もありましたが、カナダに住む歴史が長い家庭ではうちも含めてみんな英語を話していました。

お互いの違いに気づき始めたのがこのころです。みなそれぞれ学校外では食べるものも生活習慣も別でした。私や弟妹は柔道を習い毎日米飯を食べていましたが文化的な面では無知でした。実際弟はよく人に自分は中国人とのハーフだと言っていたくらいです。本当になんにも知らなかったんですね。

いろんな人種がいたけれど区別されたのは学校の授業が英語とフランス語にわかれるようになったときが初めてでした。各学年には英語で授業をするクラスが一つとフランス語で授業をするクラスが2つありました。6年生で学級がまた混合になったとき派閥ができたりもしましたが、新しい友達を作るきっかけにもなりました。異なる文化や言語などまだ若いこの時期に世界の広さを知ることができ、学校生活は素晴らしい経験になりました。

During Grades 4, 5 and 6, the diversity among students in the classroom was expanding. Some were visibly different: Asian, Native, East Indian... The rest looked 'white', ie. English, German, Scottish, Irish, but we all had different family stories. Some spoke their native tongue at home, while other families had been in Canada so long that the whole family spoke English (mine included).

I guess this is when we started to take notice of each other's differences. Some of us just did different things and ate different foods after school. As for me and my siblings, besides doing Judo and eating rice on a daily basis, we knew nothing about our family's culture. In fact, my younger brother would often tell people that he was half-Chinese. We really had no clue.

It was very peculiar how amongst the varying races, the most segregation that we had experienced was due to the fact that our schools were run in both English and French. There was one English class and two French classes in each grade. In Grade 6, they began to mix the homerooms, which led to both the forming of cliques as well as the opportunity to make new friends. I think it was a great way to experience school. Different cultures, and different languages. At such a young age, we were all realizing how big the world really was.

今回は音読が大切というお話をします。第1回目で、英語はスポーツだ！というお話しをしました。素振りに当たるのが音読です。子どもは3歳で話し始めるまでにおよそ2,000時間母国語を耳から吸収しているといえます。そして4歳で文字を読み出し5歳で書きはじめます。小学校に入って1年生はなんと270時間かけて日本語を学習します。母国語を学ぶのでもこれくらい時間がかかります。赤ちゃんは身近な大人から何度も話しかけられてそれに応えようとします。言い間違えを直接的、間接的に直してもらいながら言葉の身につけていくのです。しかし、日本で英語を学ぶに

英語学習指導員 宮地晶子の  
**エイゴのマナビカタ**

第2回  
**素振りを繰り返せ**

は母ほどの愛情で忍耐強く話しかけてくれる人はめったにいません。そこで言葉を習得する過程を自分で補つのが音読です。まずはいい音声CDのついたテキストを用意しましょう。①音だけ聞く。②テキストを見て文字と音の違いに驚く。③知らない単語を調べる。④そっくりになるまで真似をする。⑤テキストを見ないでCDの声を繰り返してみる。これを二つのパターンとして繰り返せばナチュラルスピードの英語が身につけていける。素振り(音読)を十分にしながら、練習試合(ネイティブの人と話す機会をもつ)をするのが理想的です。講談社の「ぜったい音読」シリーズなどもお奨めですが現役学生は自分の教科書を読みましよう。初めはCDについていけないでしょうが、繰り返していくうちに音声に変化して思うような発音になります。意味の解つたものを日本語に直さないで音読するのが大事です。